

ダイワ・ゴールド・ ファンド (ダイワ投資一任専用)

運用報告書(全体版) 第4期

(決算日 2024年5月14日)

(作成対象期間 2023年5月16日～2024年5月14日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（商品先物）		
信託期間	無期限（設定日：2020年6月4日）		
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。		
主要投資対象	ベビーファンド	ゴールド・マザーファンドの受益証券	
	ゴールド・マザーファンド	次の有価証券および先物取引を主要投資対象とします。 イ. 米国の商品取引所に上場されている金先物取引 ロ. 日本国債 ハ. 米国国債 ニ. 金価格への連動をめざす米ドル建てETF（上場投資信託証券）	
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限	
	マザーファンドの株式組入上限比率	無制限	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。		

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、金先物取引価格の中長期的な値動きをおおむね捉えることで、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
（営業日の9:00～17:00）
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			公社債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	商品先物 比率	純資産 総額
	(分配落)	税 分 配 金	期 騰 落 率				
1 期末 (2021年 5 月14日)	円 10,398	円 0	% 4.0	% 64.2	% —	% 99.6	百万円 7,667
2 期末 (2022年 5 月16日)	10,404	0	0.1	63.5	—	100.8	4,094
3 期末 (2023年 5 月15日)	11,061	0	6.3	67.4	—	100.7	3,411
4 期末 (2024年 5 月14日)	12,272	0	10.9	73.6	—	99.9	2,310

(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注 2) 組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

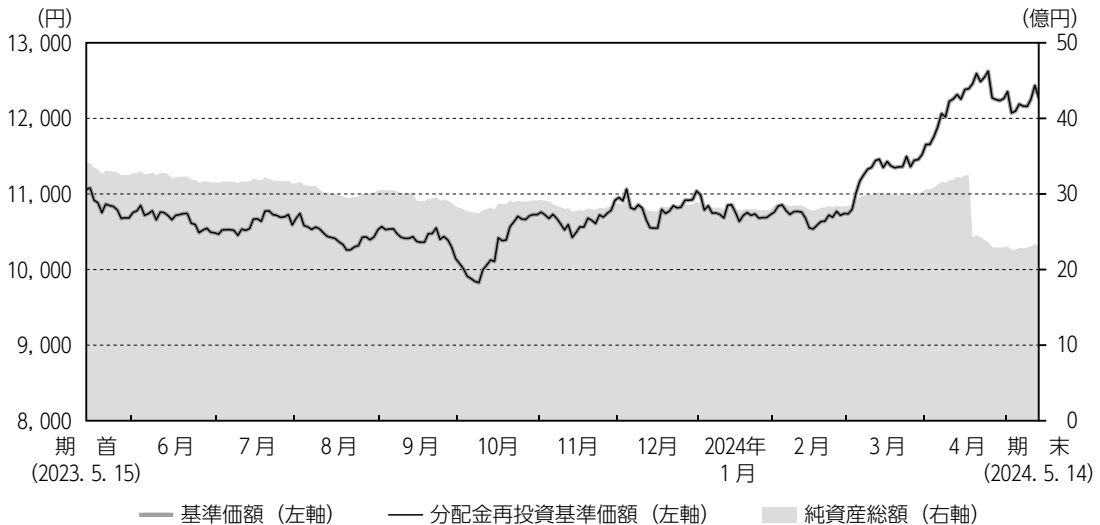
(注 4) 商品先物比率は買建比率－売建比率です。

(注 5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- * 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期首：11,061円

期末：12,272円（分配金0円）

騰落率：10.9%（分配金込み）

基準価額の主な変動要因

「ゴールド・マザーファンド」を通じて金先物取引にほぼ100%投資した結果、金先物価格が上昇したことを受けて、当ファンドの基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ・ゴールド・ファンド (ダイワ投資一任専用)

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比 率	投 資 信 託 券 率 受 組 入 証 比 率	商 品 先 物 率 比 率
	円	騰 落 率 %			
(期 首) 2023年 5月15日	11,061	—	67.4	—	100.7
5月末	10,755	△ 2.8	70.3	—	99.6
6月末	10,467	△ 5.4	73.1	—	100.7
7月末	10,681	△ 3.4	73.1	—	101.3
8月末	10,569	△ 4.4	75.2	—	100.0
9月末	10,080	△ 8.9	81.6	—	99.7
10月末	10,759	△ 2.7	78.7	—	99.5
11月末	10,953	△ 1.0	79.9	—	100.3
12月末	10,988	△ 0.7	79.8	—	99.5
2024年 1月末	10,760	△ 2.7	80.8	—	99.9
2月末	10,737	△ 2.9	81.1	—	99.8
3月末	11,655	5.4	75.1	—	99.6
4月末	12,353	11.7	73.6	—	100.8
(期 末) 2024年 5月14日	12,272	10.9	73.6	—	99.9

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2023. 5. 16 ~ 2024. 5. 14)

金市況金価格は上昇しました。

金価格は、当作成期首より、米国の銀行の信用不安が和らいだことや米国の債務上限問題への過度な懸念が後退したことなどから、軟調に推移しました。さらに、2023年6月上旬発表の米国5月雇用統計が強かったことや、6月中旬のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で年内残り2回の利上げ見通しが示されたことなどを嫌気し、6月末には1,900米ドル付近まで下落しました。7月中旬発表の米国6月CPI（消費者物価指数）が下振れして、早期の利上げ打ち止め観測が高まると、米国長期金利の低下に伴って7月後半には再び2,000米ドル付近まで上昇する場面もありましたが、8月以降は、日銀の金融緩和策の柔軟化や米国国債の増発、米国の好調な経済指標を受けた米国長期金利の上昇に上値を抑えられ、1,900米ドル台半ばで推移しました。9月19、20日のFOMCで2024年の景気と政策金利の見通しが引き上げられたことなどを嫌気し、10月初旬には1,800米ドル台前半まで下落しました。しかし、10月7日のハマスによるイスラエルへの大規模なテロ攻撃をきっかけに、中東の地政学リスクが高まると急反発しました。さらに、11月中旬以降は米国の利上げ終了観測や利下げ前倒し観測の高まりを背景に上昇基調で推移し、12月初旬には史上最高値を更新しました。その後は、米国の早期利下げ観測が後退する中でも、2024年2月までおおむね2,000米ドル~2,100米ドルのレンジで底堅く推移しました。3月に入ると急騰し、再び史上最高値を更新しました。4月には、イスラエルがシリアの首都にあるイラン大使館を爆撃したことをきっかけに中東の地政学リスクが高まり、安全資産とされる金を買われました。4月下旬には、イスラエルとイランの対立激化への懸念が和らぎ金価格は下落する場面もありましたが、再び上昇し、2,300米ドル台で当作成期末を迎えました。

為替相場米ドル為替相場は対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、経済指標の上振れなどを背景に米国金利が上昇する中、上昇して始まりました。2023年6月に入ると、FRB（米国連邦準備制度理事会）が政策金利見通しを引き上げた一方で、日銀は現状の金融緩和政策の維持を決定したことなどから、米ドルは対円での上昇幅を拡大しました。7月は、日本の政府要人等による円安けん制発言などを受けて一時下落（円高）しましたが、同月半ば以降は、米国金利の上昇による日米金利差の拡大が意識され、11月上旬にかけて上昇しました。11月半ばに入ると、日銀による政策修正や米国金利の大幅な低下を受けて下落に転じましたが、2024年に入ってから、米国金利の上昇や日銀による金融政策

の維持などを背景に円安米ドル高に転じました。当作成期末にかけては、日銀がマイナス金利の解除など大規模な金融緩和の終了を発表したものの、他国・地域に比べて緩和的な環境が続く見通しなどから、円安基調が継続しました。

■国内短期金融市況

当作成期首より、日銀によるマイナス金利政策が継続していましたが、2024年3月にマイナス金利政策が解除されました。このような日銀の金融政策を背景に、短期金利は上昇しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

引き続き、主として「ゴールド・マザーファンド」の受益証券に投資します。

■ゴールド・マザーファンド

原則として金先物投資を行い、実質組入比率は高位（ほぼ100%）を保って運用を行うことによって、金先物取引価格の動きに連動する投資成果をめざした運用を継続する方針です。

ポートフォリオについて

(2023. 5. 16 ~ 2024. 5. 14)

■当ファンド

「ゴールド・マザーファンド」の受益証券への投資をほぼ100%行いました。

■ゴールド・マザーファンド

金先物取引価格の中長期的な値動きをおおむね捉える投資成果をめざし、原則として金先物投資を行い、実質組入比率は高位（ほぼ100%）を保って運用を行いました。また、短期の日本国債にも投資しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期は、経費控除後の配当等収益が少額であったため、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当期	
	2023年 5月16日	～2024年 5月14日
当期分配金（税込み） (円)		—
対基準価額比率 (%)		—
当期の収益 (円)		—
当期の収益以外 (円)		—
翌期繰越分配対象額 (円)		2,271

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。



今後の運用方針

当ファンド

引き続き、主として「ゴールド・マザーファンド」の受益証券に投資します。

ゴールド・マザーファンド

原則として金先物投資を行い、実質組入比率は高位（ほぼ100%）を保持して運用を行うことによって、金先物取引価格の動きに連動する投資成果をめざした運用を継続する方針です。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2023. 5. 16~2024. 5. 14)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	47円	0. 433%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10, 865円です。
(投 信 会 社)	(33)	(0. 302)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(12)	(0. 110)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0. 022)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	3	0. 028	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(3)	(0. 028)	
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0. 009	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(0)	(0. 000)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(1)	(0. 008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0. 000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	51	0. 470	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

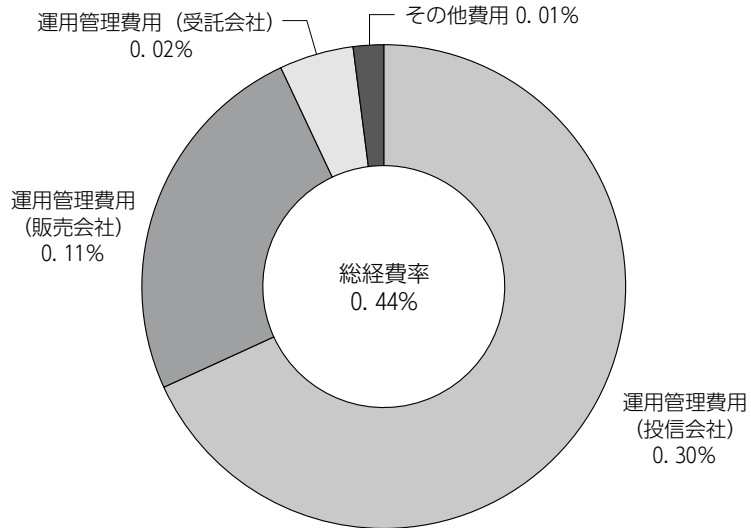
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.44%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

ダイワ・ゴールド・ファンド (ダイワ投資一任専用)

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2023年5月16日から2024年5月14日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ゴールド・マザーファンド	117,568	132,000	1,312,210	1,550,540

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ゴールド・マザーファンド	3,044,215	1,849,574	2,309,563

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2024年5月14日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ゴールド・マザーファンド	2,309,563	99.7
コール・ローン等、その他	6,929	0.3
投資信託財産総額	2,316,493	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、5月14日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝156.36円です。

(注3) ゴールド・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(316,530千円)の投資信託財産総額(2,309,636千円)に対する比率は、13.7%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2024年5月14日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	2,316,493,067円
コール・ローン等	6,929,648
ゴールド・マザーファンド (評価額)	2,309,563,419
(B) 負債	6,144,075
未払信託報酬	6,029,676
その他未払費用	114,399
(C) 純資産総額 (A - B)	2,310,348,992
元本	1,882,623,263
次期繰越損益金	427,725,729
(D) 受益権総口数	1,882,623,263口
1万口当り基準価額 (C / D)	12,272円

* 期首における元本額は3,084,204,020円、当作成期間中における追加設定元本額は126,558,673円、同解約元本額は1,328,139,430円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は12,272円です。

■損益の状況

当期 自2023年5月16日 至2024年5月14日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	191円
受取利息	775
支払利息	△ 584
(B) 有価証券売買損益	240,302,316
売買益	362,341,664
売買損	△ 122,039,348
(C) 信託報酬等	△ 12,933,572
(D) 当期損益金 (A + B + C)	227,368,935
(E) 前期繰越損益金	91,534,004
(F) 追加信託差損益金	108,822,790
(配当等相当額)	(4,586,642)
(売買損益相当額)	(104,236,148)
(G) 合計 (D + E + F)	427,725,729
次期繰越損益金 (G)	427,725,729
追加信託差損益金	108,822,790
(配当等相当額)	(4,586,642)
(売買損益相当額)	(104,236,148)
分配準備積立金	318,902,939

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程 (総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	191円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	227,367,969
(c) 収益調整金	108,822,790
(d) 分配準備積立金	91,534,779
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	427,725,729
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	427,725,729
(h) 受益権総口数	1,882,623,263口

ゴールド・マザーファンド

運用報告書 第4期 (決算日 2024年5月14日)

(作成対象期間 2023年5月16日～2024年5月14日)

ゴールド・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	次の有価証券および先物取引を主要投資対象とします。 イ. 米国の商品取引所に上場されている金先物取引 ロ. 日本国債 ハ. 米国国債 ニ. 金価格への連動をめざす米ドル建てETF (上場投資信託証券)
株式組入制限	無制限

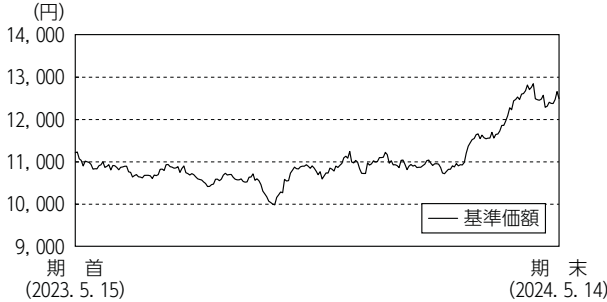
大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	商 品 先 物 比 率
	円	%			
(期首)2023年5月15日	11,206	—	67.4	—	100.7
5月末	10,898	△ 2.7	70.3	—	99.7
6月末	10,610	△ 5.3	73.1	—	100.7
7月末	10,831	△ 3.3	73.2	—	101.3
8月末	10,721	△ 4.3	75.2	—	100.0
9月末	10,229	△ 8.7	81.6	—	99.7
10月末	10,922	△ 2.5	88.7	—	99.5
11月末	11,123	△ 0.7	79.9	—	100.3
12月末	11,162	△ 0.4	79.8	—	99.5
2024年1月末	10,935	△ 2.4	80.8	—	100.0
2月末	10,916	△ 2.6	81.1	—	99.8
3月末	11,853	5.8	75.1	—	99.6
4月末	12,567	12.1	73.6	—	100.9
(期末)2024年5月14日	12,487	11.4	73.6	—	99.9

(注1) 騰落率は設定比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
 (注3) 商品先物比率は買建比率－売建比率です。
 (注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：11,206円 期末：12,487円 騰落率：11.4%

【基準価額の主な変動要因】

金先物取引への投資を行った結果、金先物価格が上昇したことを受けて、当ファンドの基準価額は上昇しました。

◆投資環境について

○金市況

金価格は上昇しました。

金価格は、当作成期首より、米国の銀行の信用不安が和らいだことや米国の債務上限問題への過度な懸念が後退したことなどから、

軟調に推移しました。さらに、2023年6月上旬発表の米国5月雇用統計が強かったことや、6月中旬のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で年内残り2回の利上げ見通しが示されたことなどを嫌気し、6月末には1,900米ドル付近まで下落しました。7月中旬発表の米国6月CPI（消費者物価指数）が下振れして、早期の利上げ打ち止め観測が高まると、米国長期金利の低下に伴って7月後半には再び2,000米ドル付近まで上昇する場面もありましたが、8月以降は、日銀の金融緩和策の柔軟化や米国国債の増発、米国の好調な経済指標を受けた米国長期金利の上昇に上値を抑えられ、1,900米ドル台半ばで推移しました。9月19、20日のFOMCで2024年の景気と政策金利の見通しが引き上げられたことなどを嫌気し、10月初旬には1,800米ドル台前半まで下落しました。しかし、10月7日のハマスによるイスラエルへの大規模なテロ攻撃をきっかけに、中東の地政学リスクが高まると急反発しました。さらに、11月中旬以降は米国の利上げ終了観測や利下げ前倒し観測の高まりを背景に上昇基調で推移し、12月初旬には史上最高値を更新しました。その後は、米国の早期利下げ観測が後退する中でも、2024年2月までおおむね2,000米ドル～2,100米ドルのレンジで底堅く推移しました。3月に入ると急騰し、再び史上最高値を更新しました。4月には、イスラエルがシリアの首都にあるイラン大使館を爆撃したことをきっかけに中東の地政学リスクが高まり、安全資産とされる金を買われました。4月下旬には、イスラエルとイランの対立激化への懸念が和らぎ金価格は下落する場面もありましたが、再び上昇し、2,300米ドル台で当作成期末を迎えました。

○為替相場

米ドル為替相場は対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、経済指標の上振れなどを背景に米国金利が上昇する中、上昇して始まりました。2023年6月に入ると、FRB（米国連邦準備制度理事会）が政策金利見直しを引き上げた一方で、日銀は現状の金融緩和政策の維持を決定したことなどから、米ドルは対円での上昇幅を拡大しました。7月は、日本の政府要人等による円安けん制発言などを受けて一時下落（円高）しましたが、同月半ば以降は、米国金利の上昇による日米金利差の拡大が意識され、11月上旬にかけて上昇しました。11月半ばに入ると、日銀による政策修正や米国金利の大幅な低下を受けて下落に転じましたが、2024年に入ってからは、米国金利の上昇や日銀による金融政策の維持などを背景に円安米ドル高に転じました。当作成期末にかけては、日銀がマイナス金利の解除など大規模な金融緩和の終了を発表したものの、他国・地域に比べて緩和的な環境が続く見通しなどから、円安基調が継続しました。

○国内短期金融市況

当作成期首より、日銀によるマイナス金利政策が継続していましたが、2024年3月にマイナス金利政策が解除されました。このような日銀の金融政策を背景に、短期金利は上昇しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

原則として金先物投資を行い、実質組入比率は高位（ほぼ100%）を保って運用を行うことにより、金先物取引価格の動きに連動する投資成果をめざした運用を継続する方針です。

◆ポートフォリオについて

金先物取引価格の中長期的な値動きをおおむね捉える投資成果をめざし、原則として金先物投資を行い、実質組入比率は高位（ほぼ100%）を保って運用を行いました。また、短期の日本国債にも投資しました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

ゴールド・マザーファンド

《今後の運用方針》

原則として金先物投資を行い、実質組入比率は高位（ほぼ100%）を保って運用を行うことによって、金先物取引価格の動きに連動する投資成果をめざした運用を継続する方針です。

■ 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (先物・オプション)	3円 (3)
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用) (その他)	0 (0) (0)
合 計	3

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■ 売買および取引の状況 公 社 債

(2023年5月16日から2024年5月14日まで)

		買 付 額	売 付 額
国内	国債証券	千円	千円
		8,102,858	599,996 (8,100,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■ 先物・オプション取引状況等

先物取引の銘柄別取引状況・残高状況

(2023年5月16日から2024年5月14日まで)

銘 柄 別		買 建		売 建		当 作 成 期 末 評 価 額		
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額	買 建 額	売 建 額	評価損益
外 国 商 品	GOLD 100 OZ (アメリカ)	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
		16,079	17,921	—	—	2,308	—	145

(注) 単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄

公 社 債

(2023年5月16日から2024年5月14日まで)

買 付		当 期	売 付	
		金 額		
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額	
	千円		千円	
1191国庫短期証券 2024/2/5	1,200,637	1210国庫短期証券 2024/5/13	599,996	
1210国庫短期証券 2024/5/13	1,200,424			
1172国庫短期証券 2023/10/30	1,200,307			
1185国庫短期証券 2024/1/9	600,483			
1204国庫短期証券 2024/4/8	600,282			
1166国庫短期証券 2023/10/2	600,192			
1223国庫短期証券 2024/7/16	600,007			
1230国庫短期証券 2024/8/13	599,968			
1192国庫短期証券 2024/2/13	500,268			
1212国庫短期証券 2024/5/20	500,159			

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1)国内（邦貨建）公社債（種類別）

作成期	当 期				末			
	区 分	額 面 金 額	評 価 額	組入比率	うちBB格以下組入率	残存期間別組入比率		
		千円	千円	%	%	5年以上	2年以上	2年未満
国債証券		1,700,000	1,699,983	73.6	—	—	—	73.6

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2)国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

区 分	当 期		末		
	銘 柄	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
		%	千円	千円	
国債証券	1212国庫短期証券	—	500,000	500,009	2024/05/20
	1223国庫短期証券	—	600,000	600,005	2024/07/16
	1230国庫短期証券	—	600,000	599,968	2024/08/13
合 計	銘柄数 金 額	3銘柄	1,700,000	1,699,983	

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2024年5月14日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	1,699,983	73.6
コール・ローン等、その他	609,653	26.4
投資信託財産総額	2,309,636	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、5月14日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝156.36円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産（316,530千円）の投資信託財産総額（2,309,636千円）に対する比率は、13.7%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2024年5月14日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	2,309,636,331円
コール・ローン等	293,231,268
公社債（評価額）	1,699,983,240
未収入金	145,385,092
差入委託証拠金	171,036,731
(B) 負債	—
(C) 純資産総額（A－B）	2,309,636,331
元本	1,849,574,293
次期繰越損益金	460,062,038
(D) 受益権総口数	1,849,574,293口
1万口当り基準価額（C/D）	12,487円

* 期首における元本額は3,044,215,989円、当作成期間中における追加設定元本額は117,568,360円、同解約元本額は1,312,210,056円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：

 ダイワ・ゴールド・ファンド（ダイワ投資一任専用） 1,849,574,293円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は12,487円です。

■損益の状況

当期 自2023年5月16日 至2024年5月14日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	12,745,371円
受取利息	△ 3,660,770
その他収益金	16,546,367
支払利息	△ 140,226
(B) 有価証券売買損益	51,173,885
売買益	51,241,828
売買損	△ 67,943
(C) 先物取引等損益	252,800,111
取引益	425,708,743
取引損	△ 172,908,632
(D) その他費用	△ 11,726
(E) 当期損益金 (A + B + C + D)	316,707,641
(F) 前期繰越損益金	367,252,701
(G) 解約差損益金	△ 238,329,944
(H) 追加信託差損益金	14,431,640
(I) 合計 (E + F + G + H)	460,062,038
次期繰越損益金 (I)	460,062,038

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。